

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	みやき町立中原小学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<div>・評価項目の半分で、最終評価が十分達成となった。各領域の重点目標に向かって、全職員が一丸となって年間取り組んだ成果である。令和6年度以降も、教職員の共通理解・共通実践のもと取り組んでいく。</div> <div>・ICTの利活用では、提案授業や研修を行ったことで、職員間の情報共有が進み、タブレット等の活用が進んだ。令和6年度は、学力向上に向けた効果的なICTの活用に向けて、児童のスキルアップタイムや職員の実態に応じた研修を設定するなど、さらなるICT活用を進めていく。</div> <div>・平日夜の留守番電話設定やアプリによる欠席連絡の徹底、教職員の意識改革により、職員平均の時間外在校等時間がどの月でも前年度比マイナスとなった。令和6年度以降も継続できるよう、業務の効率化を進めていく。</div> <div>・いじめや児童間のトラブルなど、担任等の早期対応や保護者連絡で重大化した事案はなかった。今後も、全教職員で児童の心身の状況を観察・把握に努め、児童や保護者が安心して学校に通える・通わせることができるようにしていく。</div> <div>・老人会や商工会の方などを講師に来ていただいたり、お仕事体験やスケッチ会で地域に出かけて学んだり、学校地域が連携・協働しながら子供たちの成長を支える機会を作ることができた。令和6年度も学校運営協議会の意見を伺いながら、さらなる連携・協働を進めていく。</div>
------------------	---

2 学校教育目標	「心豊かで たくましく 自ら学ぶ 風の子」の育成 ～ 自分大好き 友達大好き 学校大好き ～
----------	---

3 本年度の重点目標	<div>・豊かな人間性を育む。（思いやりのある児童）</div> <div>・健康・体力づくりを推進する。（健康でたくましい児童）</div> <div>・確かな学力を育む。（自ら学び考える児童）</div>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目										主な担当者		
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善～「教える」「考えさせる」「習熟させる」のメリハリのきいた授業～	○主体的な学びの姿を引き出す授業づくりについて、ICTを活用しながら行う。 ○ICTが学習理解の手助けとなり、学習が分かるようになったと答えた児童を全体の70%とする。		・全職員が参観する提案授業を低・中・高学年で設定し、学校全体でICTを活用した実践を100%共有する。 ・児童のスキルアップタイムを設定し、タイピングなどの基本的な操作方法の定着を図る。 ・教職員の実態に応じたICT研修を計画し、基本的な内容からより応用的な内容まで習得できる機会を設ける。		B	・提案授業を随時行い、互いの授業を参観することで、職員のICT技能の向上が図れている。 ・「スキルアップタイム」を設定したことにより、児童の基本的な操作方法の向上が図れている。	A	・全職員が提案授業を行い、さらに、代表者の授業を参観し、研修を行ったことで、新たな活用方法を知ることにつながった。 ・児童の情報活用能力の向上により、学習の活動がこれまで以上にスムーズに行えるようになった。	A	・知識を広げることはできるが、思考力や表現力を高めることは難しい。社会に出て大切な力は人と交流をして、自分の考えを伝える力だから、コミュニケーション力を上げる取組を続けてほしい。	○まなび部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重すること、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○Q-Uを2回実施し、1回目よりも2回目の学級生活満足度が高くなるようにする。 ○Q-Uの結果を学級づくりに活用し、「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり遊んだりする」と答えた児童80%以上とする。	・自他を認め、尊重する態度を育てるために、年に3回「光るところみつけ」を実施する。「丁寧な言葉づかい」を1年間の生活のあての重点目標として、生徒指導協議会で情報共有を図る。 ・各学級で道徳の時間を使い、人権に関する授業を行う。	B	・1学期に登校班の友達、2学期に縦割り班の友達「光るところみつけ」を実施した。「丁寧な言葉づかい」について、月1回生徒指導協議会で情報共有できている。 ・12月に人権集会を行い、その後に各学級で人権に関する授業を行う計画である。		A	・2回目のQ-Uで、すべての学年において3～15%学級生活満足度が高くなった。 ・よりよい学校にするためのアンケートで、「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり遊んだりする」と答えた児童は約94%だった。	A	・挨拶をする児童が増えている。児童が楽しんで学校に通ってくれるように継続してほしい。	○こころ部 ・道徳主任 ・教育相談担当	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上		・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、いじめについてのふり返り欄を設けることで、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・「いじめの避難訓練」を実施する。		B	・「心のアンケート」に記入があった児童については、すぐに担任から聞き取りを行い、早期に対応することができる。 ・夏季休業中に「いじめの避難訓練」についての職員研修を行った。授業での実施については、時期を検討中である。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員は100%だった。(そう思う70%、だいたいそう思う30%) ・「いじめの避難訓練」の授業を、各学年の実態に合わせた内容で実施した。	A	・早期対応、組織的な対応を継続していくことで、児童も安心して学校に通える。	○こころ部 ・生徒指導主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むととするための教育活動。	●「学習や行事で自分で決めた目標に向かってがんばった」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・各学習活動及び行事への見通しをもって取り組ませ、自分自身の取り組みの過程や成長についての振り返りを行うことで自身を振り返る機会をもたせる。 ・夢授業や夢先生の学習を通して、将来の夢や目標について考える機会をもたせる。	B	・キャリアパスポートを活用し、学期や行事ごとの自分の成長を振り返ることで、今後の学校生活に生かしたいという意欲につながっている。 ・夢授業へ向けて、打合せをしている段階である。将来の夢や目標をじっくり考えることができる機会になるよう、計画していきたい。		A	・行事ごとに振り返りを行ったことで、自分の成長を振り返る機会となった。 ・夢授業の実施により、6年生が真剣に将来について考える機会になった。児童の感想から、9割の児童が前向きに将来について考えたことが伺える。	A	・夢授業は中学校の職場体験とつながるとても良い機会になったといえる。地域からも講師として参加して、人生について語る良い機会となった。	○まなび部 ・キャリア教育担当	
	○人権意識を高め、コミュニケーションの手段である言葉遣いに関する指導の充実	○言葉遣いについての振り返りを定期的に各学級で行う。	・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、言葉遣いに対してふり返り欄を設け、自分自身を振り返らせる。	B	・学級でほかほか言葉の指導やその言葉を校内に掲示することで、相手を思いやる言葉遣いを意識できるようになってきた。		A	・運営委員会の児童を中心呼びかけを行い、全校で丁寧な言葉遣いについて意識することができた。職員間でも相手を思いやる言葉遣いを意識して指導に取り組んでいる。	A	・丁寧な言葉遣いについて、できたときは大人がたくさんほめて、伸ばしていきたい。	○こころ部 ・道徳主任	
	●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	③「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上にするため ・「バランスの良い食事の形が分かる児童」の割合87.9%→95% ・「簡単な調理ができる少しできる児童」の割合89.4%→95%	A	・給食の時間に電子黒板に配膳図を提示すると共に配膳カードを使用し、食事の形を意図できるようにする。 ・「毎食」「たまに」まで入れると86%のクラスが使用している。 ・夏季休業中の課題として簡単な調理を宿題として出した。結果、98%の児童が課題に取り組む、保護者と健康に良い食事について関心をもつことができた。		A	・簡単な調理ができる・少しできる児童」の割合が85%に下がった。それは、調理ができる基準が児童の中で上より、出来ないことに気づいたことによると思われる。 ・簡単な調理の実践は、夏休みと冬休みともに高学年で97%取り組むことができた。	A	・児童の気づきが出てきたことはとても良いことだと思う。 ・日頃の給食を含めて食育が行われていることが家庭での取組につながっている様子が分かった。	A	○からだ部 ・食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体力向上の具体的実践	○県のスポーツチャレンジの参加学級、参加種目を増やす。		・クラブ活動でスポーツチャレンジに取り組んでもらえるように周知する。 ・学校での取り組み数50種目を目指す。		B	・前期だけで28種目は達成しているものの、残りの種目は自由参加になっているので、周知して取り組み数を増やしていきたい。	B	・後期に達成数を増やすことができなかった。記録の入力の方法を全職員で確認し、各々入力してもらうようにする。	B	・縄跳びなど体力づくりにつながるような取組を体育の授業を使ってほしい。	○からだ部 ・体育主任
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1日に45時間・1年間360時間)を遵守する。	・勤務時間を意識した働き方とするために、放課後に打合せ等を設定しない。 ・定時退勤日を設定し、退勤時刻までに優先順位を考慮して効率的に業務を行い、時短意識を高める。	A	・放課後の定例会議を厳守し、必要最小限の打ち合わせとすることができている。 ・勤務時間を意識し、効率的に業務遂行することができている。昨年度との比較でも、一人当たりの超過勤務について減少している。		A	・標準時数を大幅に上回る学年について、授業時間の見直しを行った。そのことにより、放課後の時間を教材研究や成績処理に充てることができた。 ・1月45時間以内の時間外在校等時間の上限を意識して勤務できた。	A	・教職員の働き方改革については、社会から目を向けられるようになってよかった。心も体も健康に働く環境を整えてほしい。	・教頭	
	○組織的な学校運営と教職員の連携促進	○時間を意識して校務に取り組んだ教職員80%以上達成。	・教職員の連携を促進し、各部会等の分掌事務について、効率化可能な校務を時短で実施できるようにする。 ・職員連絡会は行わず校務シェアボードの掲示板を活用して、各担当からの連絡を確認する。	A	・勤務時間を意識して校務に取り組んだ教職員が95%を超えており、ワークライフバランスを考えて働く意識をもつことができている。 ・職員連絡会はごく短時間設定をし、内容を厳選して行っている。校務シェアボードの活用が進んでおり、時間の有効活用ができている。		A	・勤務時間を意識して校務に取り組んだ教職員が100%となり、中間評価よりさらに意識してワークライフバランスを考えて働く意識が高まった。 ・校務シェアボードの活用を積極的に行い、ペーパーレス、時間の有効活用ができた。	A	・「デジタル化が進むことは非常によいことだが、職員間の連携を怠らないようにしてほしい。	A	・教頭
●特別支援教育の充実	○発達障害への理解と個別支援の計画的推進	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上		・児童理解についての生徒指導連絡会を月3回実施し、職員間での情報共有を行う。 ・特別支援教育に関する実践力を高める研修を計画的に行う。		B	・生徒指導協議会を月3回実施し、生徒指導、教育相談、保健など情報共有を行うことができている。 ・小中連携研修会において、配慮を要する児童・生徒に係る内容を実施することができた。児童の特性に合わせた支援の方法について研修を深めていく必要がある。	A	・スクリーニングを利用して低中高部会に分かれ、配慮を要する児童・生徒に係る内容を実施することができた。 ・特別支援教育に関する専門性が向上したかという職員アンケートでは、100%が肯定的な意見であった。	A	・スクリーニングについて全ての児童に行うことは継続してほしい。	・特別支援教育コーディネーター

2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○安全教育	○危機回避能力の育成と、安全指導の徹底	○防犯ブザー所持率90%以上達成 ○児童の交通事故0件達成	・毎月、防犯ブザーの所持の確認を行う。 ・交通安全指導、登下校指導を通して、児童の交通安全への意識を高める。	B	・防犯ブザーの所持率は84%と目標を下回っている。防犯ブザーを持つことで犯罪の抑止や、危険な目に食ったに自分の身を守ることを伝え、所持率を上げた。 ・事故の発生件数は0だが、登下校時に登下校のルールを守らず危険な児童がいる。	B	・防犯ブザーの所持率が76%と下がってしまった。定期的な声かけ、家庭へのお願いが必要。 ・後期に職員で水曜の下校指導を重点的に行った。それにより、一列歩行の意識が高まった。 ・交通事故が0件という目標が達成された。	B	・下校時、声掛けが必要なくらい車道まで広がって歩いていることがあった。教職員の見回りがあると改善する。 ・交通事故0件は継続したい。	○からだ部 ・安全指導主任
○生徒指導	○凡事徹底	○「ていねいな言葉遣いで話す」「学校のきまりを守る」についてのめあてを達成した児童85%以上	・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、言葉遣いやきまりを守るについてふり返る欄を設け、自分自身を振り返らせる。 ・生活朝会で、児童のがんばりや活躍を紹介することで、児童の意識の向上を図る。	B	・「心のアンケート」に左記の項目を追加したことで、担任が児童一人一人の状況を把握しやすくなった。 ・毎月の全校朝会や生活朝会で、各教科の表彰や行事等の取り組みなどについて、児童のがんばりを紹介することができた。	A	・それぞれの項目について、5段階評価のうち、3以上を付けている児童をめあての達成とする。「ていねいな言葉遣いで話す」…94%、「学校のきまりを守る」…98%。 ・「言葉遣い」の項目では、高学年の自己評価が低かったが、全体で見ると目標は達成できている。	A	・言葉遣いの指導には時間がかかると思う。家庭や地域でも同じように声掛けをしてきたい。	○こころ部 ・生徒指導主任
○学力向上	○学習規律の徹底	○「学習のきまり」「休みの時間の過ごし方」(かつ・お・す・き)について「守れている」と肯定的な回答をした児童80%以上達成。	・「学習のきまり」について、学校全体で共通理解をした上で、学年等チームとなって呼びかけを行う。 ・「休みの時間の過ごし方」(かつ・お・す・き)を全校で共通理解し、落ち着いた気持ちで学習に向かわせることで、学力の向上を図る。	B	・「学習のきまり」について、学校全体で共通理解することで全校で統一した指導ができるようになった。 ・「休みの時間の過ごし方」(かつ・お・す・き)について「守れている」と肯定的な回答をしている児童が90%おり、目標を達成していた。	A	・新年度当初に教員間で共通理解を図ることで、学校全体で「学習のきまり」についての指導を行うことができた。また、来年度の学習のきまりをより良いものにしていく準備ができた。 ・「休みの時間の過ごし方」(かつ・お・す・き)について「守れている」と肯定的な回答をしている児童が90%おり、目標を達成していた。来年度も引き続き取り組んでいた。	A	・時間を守ったり、片づけをしたりするなど、学校でしっかりとしつけをしていく必要がある。	○まなび部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
○地域連携	◎コミュニティ・スクールの推進	◎各学年で2回以上、地域と連携した学習活動に取り組む。	・地域の各団体と連携し、学習活動を計画・実施する。 ・年間4回学校運営協議会を開催し、よりよい地域連携の在り方を検討する。	B	・計画的に学校運営協議会を開催し、意見交換を行った。給食試食や授業参観を行い、今後の学校運営に関する計画を立てることができた。	B	・各学年で計画的に地域(老人クラブ・民生児童委員等)との連携を図ることができた。特に、6学年で夢授業という新たな取組にも挑戦できたことは、成果といえる。	A	・老人クラブや民生児童委員との連携ができたことは非常によかった。新たな取組の夢授業等ぜひ継続してほしい。	・教頭 ・教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<div>・評価項目の8割で、最終評価が十分達成となった。各領域の重点目標に向かって、全職員が一丸となって年間取り組んだ成果である。</div> <div>・校内研究で提案授業や研修を行い、職員間でICT活用及び指導法の情報共有ができた。スキルアップタイムでICT活用の時間を全校で共通して取り組んだことで、児童の情報活用能力が向上した。令和7年度は、学力向上に向けた効果的なICTの活用に向けて、児童のスキルアップタイムや職員の実態に応じた研修を設定するなど、教職員の指導力向上と児童の学力向上につながる教育実践を積み上げていきたい。</div> <div>・時間外の音声ガイダンス電話設定やアプリによる欠席連絡の徹底、教職員の意識改革により、職員平均の時間外在校等時間が前年度比マイナスとなった。令和7年度以降も継続できるよう、業務の効率化を進めていく。</div> <div>・いじめや児童間のトラブルなど、担任及び生徒指導主任等、組織で早期対応を行い、重大事案となることはなかった。今後も、全教職員で児童の心身の状況を観察・把握に努め、児童や保護者が安心して学校に通える・通わせることができるようにしていく。</div> <div>・老人クラブや商工会の方などに講師に来ていただいたり、校区内探検やスケッチ会で地域に出かけて学んだり、学校・地域が連携・協働しながら子供たちの成長を支える機会を作ることができた。令和7年度も学校運営協議会の協力を得ながら、さらなる連携・協働を進めていく。</div>
----------------	---